

### 3つの本能

2023. 2. 13

脳の専門医は、どんな人の脳も3つの本能をもっているという。それが「生きたい」「知りたい」「仲間になりたい」である。なるほどと納得できる。この脳の本能から導き出せる脳が求める生き方は、世の中に貢献しつつ安定して生きたいということだという。脳の本能を満たして具現するこの生き方は、そのまま人が幸福に生きる道と重なり合う。

人は誰でも生きたいし、知りたいし、仲間になりたいと思っている。それが本能である。生きたいというのは、ただ生存したいというのではなく、人の役に立ちたい、人に認められたいということであろう。そうすると、よりよく生きるためにはどうすればよいのかということが課題となってくる。これが簡単ではない。このことで多くの人が四苦八苦ししている。これこそが生きてということであろう。

人は誰でも知りたいと思っている。知的欲求をもっている。この欲求には終わりが無い。あることを知ったとする。すると、まだまだ知らないことに気づかされる。知れば知るほど、知らないことが増えていく。それでも人は知りたいのである。この気持ちを退けることはできない。ならば、いかに知ろうとするかである。知って終わりではない。絶えず知ろうとする姿勢が大事なのではなからうか。

人は仲間をつくるのが好きである。仲間がいないと生きていけない。世の中は、仲間を基にしたもので成り立っている。結び付きはそれほど強くないかもしれないが、町内会、市町村、都道府県などがある。国や民族、人種、部族となると、その結び付きは強くなる。また、〇〇会などの組織や集団などは、仲間の最たるものだろう。おかげで社会は、〇〇会があふれている。会があるということは、会長以下役職がある。役職には、それぞれが果たすべき役割がある。仲間は必要なのだが、そのことで苦勞しているのも事実である。

本能であるならば、この3つをいかに自分の人生に取り入れていくかである。今までは、生きるのは当たり前、知りたいという欲求はほどほど、仲間になりたいは本人の意思とはほとんど関係なく流れのままにだった。だが、これからは、もっと生きたい、あれも知りたい、これも知りたい、そして、世の中に貢献できるように仲間づくりをしたいと思う気持ちを強くしていく必要がある。これからは、流れのままとはいかない。すべて自分で考えてやっていかなければならない。

こう考えると、今まで何十年と組織の中で生きてきたのは、窮屈な面はあったが、ある意味、楽な部分もあったことに気づかされる。自分で考えなくてもよいというのは、面白みはないかもしれないが、楽でもある。

本能とは、ある行動へと駆り立てる性質のことである。そうであるならば、これからは、本能のままに生きていくという考え方も必要である。